



岐蘇林

目次

- ▲講演 畜産と林野との關係
- ▲研究 鴨綠江採木公司の一瞥 青嶋の山林 我が文學史 和歌
- ▲通信 稽程一千日 思ひ出の記 南洋輕より
- ▲雜報 學校便り 校友會より 會員消息 會員

（日十月七年二十四治明）（日行五廿月每定） 號一拾六第 日五十二月一十年三正大

講演

畜産と林野との關係

本縣技師 岩田勇氏講演要領

本講演は去る七月三日本縣技師岩田氏が木曾馬市視察の爲來蘇せられし時、序を以て本校を參觀せられ、その際講演ありし要領を摘録せるもの果して摘録するを得たりしや否やは不明なり。されど幾分たりとも原講演の精神を窺すを得ば裨益少からざるを信するもの也。生來の不學、文辭の修飾に乏しきと杜撰なることは大方諸賢の寛容を乞ふ。（筆記者加藤白）

前言畧 余の今述べんとする畜産業と林業とは一見大にうの方面を異にするが如しと雖も凡て林業にあれば農業にあれば、各科各業に亘りて一般的の智識を備ふることは無用の事にはあらず、此意味よりしてか當校長が多方面に亘りて知名の士を聘して聴講せらるゝは余の最も感服せる處也とす。

毛付市の由來 元來木曾地方に於ける牧畜業即ち馬産の發達を促さしめしものは専ら尾州藩のこれに對する保護と干渉とにより、往昔より尾州藩がその軍馬を買上ぐるに際して良馬の靈の一部を剪み切ありての證とし、その餘の馬を牧畜及勞作用として賣買することを許可せし事ありしにより「毛付市」なる名稱起りし也。故に當時賣買に附せられしは凡て第二流の馬匹のみなりし也。

長野市南區町巳三番地 印刷者 田中彌助

長野縣西境野島町二八九番地 發行所 蘆原書店

木曾馬の世に歡迎せらるゝ所以 所謂木曾馬と稱して岐阜三重愛知等の諸縣に拘つて頻りに歡迎せられつゝあるは概して體軀矮小にして食量の少きと性質柔順にして農業に適せると一は野生的に發育したるものが周到なる管理と保護とによりて完全なる發育をなすを次てなりと云ふ。

木曾馬産の發達 從來木曾馬産の發達は尾州藩の保護のみならず一に牧草の豊富なるに由ること多大にして原野の利用は最も牧畜業に影響するものなり。

我國の林業と牧畜業 元來我國は粗放なる農業を營み來りたるものにして其後明治の初年に到り地租條令の發布と共に納稅義務等の關係により地所殊に山林原野の所有權放棄盛に行はれたり。國家はこれが取締り山林業に利用して所謂國有林野の編成をなすと共に又一方所有權の擴張を圖れり。然るに爾來林業及び牧畜業の發達日を追ふて進み、漸く現今原野の不足を訴へ國有林野の拂下を請ふものあるに到れり。

原野の變遷 次に原野の變遷状態を述べれば左の如し。

第一期 原始状態を稱し、綠肥となし飼料に良好なる薄、萱(茅)の如き禾本科植物盛に繁茂す、一町歩より三千乃至五千貫の草を得べし。

第二期 荳科植物萩等の繁茂多く牛馬の飼料並びに放牧に適し、一町歩より二千五

百乃至三千貫の草を得べし。第三期 初期には蕨等の如き羊齒類を生じ株張り悪くして比較的長し。現在我國の原野は大部分これに屬す、而して一町歩より二千貫内外の草を得。末期には笹を生じ一町歩より一千乃至千二百貫の草を得。一にこれを粗草期と稱し中期までは牛馬の飼育にも綠肥の採集にも適せり。

第四期 芝期と云ひ重に地芝の繁茂著しく、萩の類は全く其跡を絶ち蓬をも失ふに至りて笹のみ隨所に蔓延し根張徒らに良好なり。第五期 秃山期といふ吾人は此時期に於て始めて造林を論じ治水を稱ふるに至れるなり。荒廢せる原野の恢復 扱次に起る問題は斯く荒廢したる原野地力の恢復は如何にすべきやと云ふにあり。第三期にありては三ヶ年位にして容易に恢復するを得べしと云へども後の第四第五期に至れば恢復最も困難にして第三期の末期迄に至らしめむとせば少くとも八ヶ年を要す。

す五分或は三寸等に分ちて刈る時は其翌年の草量に大なる影響を及ぼすものなり。これに就き考ふべきは「きれいに刈る」と云ふを一種の誇りの如く思ふものありて不知識の間に原野を荒廢せしむることあり。第四期の如き荒廢原野の恢復には灌漑及び石灰の撒布等最も有効なり。

林地に放牧 林地に牛馬を放牧するは多々民間にて嫌ふところなれども農商務省林業試験場の調査によれば林木五年乃至二十年生時代に於ける林間の草はおほむね軟弱にして消化良好なれば牛馬の飼料に最も適す。故に土地狹隘なる地方にありては一の良法たるを失はざるべし。

共同林野の改良 次に共有林野等の粗放原野の地力保護及び改良は野割の法によるを最良となす。其方法は十乃至十五ヶ年の年限を定めて抽籤を行ひ各自の持分を一月平均に別ち家畜の有無によりて融通をつくるなり然るときは粗放なる原野も漸次集約に趣くべく然らば現今の牧畜にも尙牧草を得るの余地ありと云ふべし。

牧畜と農林業 牛馬の飼育と農林業とは今更取々するまでもなく關係頗る大にして、牛馬を失ふ時は農林業の組織を變ぜざるべからず。畜業の發達せる小縣が現に昨年の如き千八百頭の牛馬を買ひ入れ牧草に窮して國有林野の拂下を請ひたるが如き最近に於ける一好例と云ふべし。要するに牛馬を養

研究

鴨綠江採木公司之一瞥

在京城 本多清右衛門

鴨綠江上流森林は清國朝鮮側(豆滿江森林面積をも含む)を合せ實に其森林面積七十八萬八千三百八十五町歩此の蓄積二億七千八百八十八萬八千五百八十五町歩に達し雄に東洋に冠たり果せるかな万尺に達し雄に東洋に冠たり果せるかな東洋に虎視耽耽たる魯國は此等森林の伐採權を獲得し一大會社を組織し伐採を開始せり爾來其の鴨綠江にて伐採したるものは清領大東滿溝に流下し其の豆滿江流域にて流下るものは同江流に下し浦鹽に輸送し此の一大有利の事業は實に三十八年戦役まで全く露國に壟斷せられつゝありたる也然るに今や其の戦捷の結果此の一大森林の經營は日本帝國の掌中に歸するに到れり而して本公司は明治三十八年十二月二十二日北京に於て締結したる滿洲に關する日清條約附屬協約第十條の規定に基き明治四十四年五月十四日協定の日清合同材木會社に關する取極並に明治四十一年九月一日奉天に於て兩國政府委員の協議決定せる業務章程により兩國政府の合同事業として成立せる

國際的會社にして鴨綠江右岸帽見山より上流二十四道溝に至る森林の伐採及其界の外所産木材の買收を行ふこととし明治四十一年九月廿五日(光緒三十四年九月初一日)資本金北洋銀三百萬元(元は我九圓也即二百七十萬圓)存在期間二十五ヶ年間を以て開業爾來今日に及べり。

二、森林の概況

鴨綠江は其源を長白山(一名白頭山)に發し幾多大小の支流を集め一大江をなし蜿蜒長蛇の如く途中渾江を合せ大東溝に於て海に注ぐ延長二百余里の大河にして遼河と共に南滿洲に於ける二大河と稱せらる其流域一帯の地は千古斧鉞の入りしことなき一大森林にして其面積鴨綠江流域百廿方里渾江流域八方里と稱せらる今一方里を千五百五十五町歩として計算すれば鴨綠江流域十八萬六千六百町歩渾江流域十二萬四千四百町歩計卅一萬一千町歩に上る試に思へ此の三十一萬余町歩の森林は假に年々六千町歩宛伐採するものとせば優に半世紀を要する大事業なることを豈一大富源ならずとせむ哉今之を數字に尋ねるに一町歩の材積鴨江流域を六百五十尺とし渾江流域は多少林木疎立なるを以て六百尺として計算すれば前者は一億二千九十九萬尺後者は九千四百六十四萬尺計壹億九千五百九十三尺の蓄積を有することとなる而して森林として最も有名なるは本流にては八道溝、

十五道溝、十九道溝、二十二道溝、支流渾江にては哈泥河、回頭溝、三岔子及羅圈溝とす一般に濶葉樹に比ひ針葉樹の蓄積多く現在年々の木材伐採高は約百萬尺にして針葉樹其の大部分を占め濶葉樹は極めて少なし今後の濶葉樹利用方法を考へ且つ針葉樹の山地に於ける森林更新保護方法にして適當に行ふを得ば殆ど永久に現在の伐採額を減することなく經營し得ることは敢て難事にあらざるべし。

此の廣大なる森林が産出する樹木の種類は針葉樹にありては黃花松、紅松、杉松(モミ、トウヒ、シラベの類)濶葉樹にありては柞木(ナラ、カシワの類)核桃木、榆木、櫟木、水楡櫟等也又崩松、赤柏松等の貴重樹木も産す

鴨江森林の一般林相は之を五段に分つを得べし一、最下等にして無立木地又は散生地、二、濶葉樹林、三、針葉混交林(濶多)四、針葉混交林(針多)五、針葉樹林この順序に進みあるが如し

針葉樹は一般に樹幹の老なるもの少からずと雖も落葉松は大木少く目通直徑八寸乃至一尺位のもの最多數を占め冬季は恰も竹林を望むが如く虎狼喜んで、中に棲息すといふ伐木跡地は一般に荒廢歸するが如き傾向あるも擇伐作業を取るを以て甚だしくは憂ふるに足らず近年顧みる所あり稚樹の保育とともに補植を行ふ計劃なりといふ

之に伴ひ野火の防止策を講ずるに於てに後繼森林の形成は難しとすべからず

三、事業の一般

(1)、伐木並に造材——十月末より始め翌年五六月頃迄に終り六月初旬より十月下旬に流下し終るものとす。

材種は角材九材の二種とす角材は、一連物一連半物、二連物、二連半物……五連物等あり、一連物とは木材の大小に拘らず長さ八尺ある木材のこと也通常一連材及二連材最も多しといふ九材は大抵三連半(二丈六尺)を普通として以上四連物、四連半物、五連、六連……十連等あり、六連以上は大捲と呼ぶ帆柱用材也、黃花松の帆柱材最も尊重せらるゝと云ふ。

運材、——木材運搬は六月初旬より始め十月下旬迄に安東縣貯木場に流下し流るものとす此の時期に於ける鴨江は筏を以て充たされ鴨江名物の一に數へらる之れに要する人夫は凡て支那人にして彼等は皆多年の經驗上巧に操縦する様頗る美事也山地より鴨江迄の運材は軌道木馬牛曳管流等によりて搬出し後筏を編み流下せしむるものとす山地に於ける運材人夫は内地人を頭とし支那人朝鮮人を使役する方法を取りつゝありと云ふ。(2)、木材の生産量及其販路の狀況

イ、生産量 年に依り一定せざるも平均約百萬尺内外也今明治四十二年以降大正二年に至る生産量を表示すれば左の如し

四十二年	四十二年	四十二年	四十二年
四十二年	四十二年	四十二年	四十二年
四十二年	四十二年	四十二年	四十二年
四十二年	四十二年	四十二年	四十二年

輸出先 四十二年 四十二年 四十二年 四十二年

天津	山東	營口	錦州	大連	奉天	安東	奉天	上海	其他	計
400,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	1,500,000

四、結 論 鴨綠江流域に於ける森林伐採權は日支合同事業として存在期限二十五ヶ年なるは前記條約の如きも此の期限内に於ては如何なる方法を講じて伐りつくすことは不可能の事業に屬すとは當局の語る所也然れども鴨江材の聲價は近年著しく開拓せられ年々逐て事業の發展を來しつつあるは事實にして近き將來に於ては大に見るべきものあり

深き緣故を有し已に廿年來殆ど獨占の状態にありといふ就中天津はその背後に北京の大市場を控へ其の範圍頗る廣大なるが故同材の三四割を輸入す青島營口芝罘等之に次ぎ近來上海方面にも新販路開け尙進んで南京漢江等の市場に及ばんとしつゝあり亦南滿州朝鮮にも其勢力を及ぼし現に朝鮮に於ては年々二十萬尺鴨江材を使用すと云ふ今左に最近に於ける輸出統計を示さん

四十四年	大正元年	大正二年
四十四年	大正元年	大正二年
四十四年	大正元年	大正二年
四十四年	大正元年	大正二年

らん 思ふに鴨江森林をして永久現在の蓄積を保たしめ同一の年伐量を續けしむるは作業方法の宜しきを得ば敢て難事たらざる可し誰か一度滿州の地に足を留めんか滿州の寶庫は實に鴨江森林にありと絶叫せざるものやあるべき余は當時出張中の閑暇を窃に採木公司に出頭し主任技師の談話を聴取したるのみにして此の雄大な森林美に接する

青島の山林

朝鮮にて 西野 入 徳

六月廿八日埃國新領土ボスニアの首都「サラエボ」に於て同國皇太子フランツフェルジナンド殿下同妃殿下と共に刺客の劔に逝かせ給ひしより歐洲の天地は忽然として戰雲の掩ふ所となり外交の連鎖は其影響を遂に極東の天地にまで及ぼし今や太平洋の浪亦静かならんと欲するも能はざるに至る實に此未曾有なる世界戦争の爲めに直接又は間接に被る各國同胞の犠牲たる蓋し意表の外に出ずべし、然りと雖も事既に茲に至る徒に其慘禍の大なるを嘆ずるも效なし其平和克復に關しては一つに軍事及外交當局者の渾身の努力に俟つの外なし吾人職を殖産興業の事に致す者は此間専ら平和的奮闘を整へ纏て平和克復したるの日着々堅實なる活動を進めて以て戦亂によりて蒙りたる慘禍を償ふに於て萬遺漏なきを期するは蓋し吾人當然の責務たるを感す 此秋に際し膠州灣租借地の詳細を窺はんとするは惟ふに万人の等しく希望する處たるべし而して其全般に對する真相を知らんと欲せば産業に貿易に教育に軍事に將又獨乙

の殖民政策に各方面に向つて詳細の解説を試みるべからず雖然莫大の紙數を要するが故に余は單に吾人に最も關係密接なる林業に付き其概畧を記するに止めんと欲す若し多小なりとも同窓諸賢の參考たるに價せば余が本文を草せるの目的は即ち成れりと云ふべし

(一) 租借地の概況

膠州灣租借地の範圍は海陸を合せて四百二十九方哩にして陸地は僅に二百十三方哩に過ぎずと雖も背後地たる山東其他支那北部の主要なる各地と交通の連絡あり商業上恰も北部支那に於ける香港たるの地位を爲し實に獨乙極東經營の根據地たるに恥ぢずされば東洋殊に我國との關係に於て甚重要なもの存す獨乙が有らゆる手段を盡して營々日も亦足らざるは宜なりと云ふべし

(二) 租借地以外山東省一般の山林

内地より玄海洋を渡りて釜山に上陸したる旅客は直に朝鮮山林の荒廢を嘆じ殖林は急務中の急務なりと説くを常とし北清を歴遊したる旅客が東洋唯一の廻轉長橋によりて

鴨綠江を渡り朝鮮に入れば翠綠滴らんとする山林の多きを説く以て滿州山林の如何に荒廢せるかを想像するに足らむ 元來山東は人口頗る稠密にして苟も開墾せられ得る土地は悉く耕地に利用せらるる偶餘地あれば疊々たる岩石にあらざれば裸々たる秃地崩崖のみと謂も敢て過言にあらざるなり而して人口の多きは共に燃料を要する多きを以て樹木は勿論農産物の根株も飼す所なく盡く取り去るが故に冬季に至れば耕作地に一物の存するものなく郊外水邊田圃の畦畔至る處の芝草は毎年鋤鋤して其根株をも余さず採取して燃料に供す如斯實況なるが故に樹木としては水邊家傍に點在する揚柳と墓地に植栽したる松柏の僅に存するあるのみ冬季初春の候に於ける山東は全く地に青物を見ず沿岸各地方は殊に甚しとす僻陬農家の如き周圍渾て清掃せられ又一點の塵をだも止めず斯は衛生若くは清潔上より來るに非ず苟も燃料に堪ゆるものは争て之を收拾し去るによる道途野外に老幼男女が籠を携へ往復するもの市を爲すは渾て燃料採取と馬糞の拾收にあらざるなし其數時間を力めて僅に手籠に滿るの草根を得て満足し歸路に就くの狀眞に可憐と云ふべし如斯狀況なるが故に一の地上を覆ふる物なく加ふるに乾燥甚しく彼の黃河の流域なる細末の土壤は風に隨て捲き天地濛々恰も濃霧の如し其甚しきに至ては天日爲めに暗く室

(一) 概説

茂有年間斯る狀況を持続したりし山東の一角膠州灣に一團の翠綠滴らんとする美良の森林を見る是を獨逸政廳の租借地殖林となす一見人をして驚嘆せしめ如何にして短日月能く此造林を爲し遂げたるやを疑はしむ獨乙が膠州灣の租借を爲すや青嶋諸般の設備に着手すると共に青嶋政廳に山林局を附設しエムハッス氏を以て其局長となし専ら租借地造林の事を掌らしめたり聞く所によれば當初造林するに方り山林を保護し有終の目的を達せしむるには盜伐濫伐を防止するを第一要義となし之を防止するには先無秩序無節操なる支那人に大威壓を加ふるに如かずと爲したる者なり今日に於ては緩和されたるが如しと雖も着手當時にありては枯枝を採取したる輕微の事件と雖も頗る重刑を科し甚しきは銃殺の刑に處したる等支那人をして戰慄せしめたりと云ふ斯る手段の是非に付ては自ら議論あるべしと雖も青嶋をして今日の美林たらしめたるは植林上の努力によるは勿論なるも此取締の奏効も亦最大因たらずんばあらず現今同地方に於ては森林外は他の沿岸地方と均しく野に一物の存する者なきに拘らず造林地は劃然地相を異にし別世界の觀あり大小樹木は勿論枯枝落葉雜草と雖も採取したる

(二) 膠州灣の山林

内亦晝間燈を掲げて纔に事を辨すと云ふ荒涼慘憺も亦茲に至て極れりと云ふべし

形跡なく落葉雜草は累々堆積地を覆ひて土... (2) 山地造林 造林地は先づ林道を造り... 總頂に出るまで巧に旋轉曲折して車馬の通... 聊の勞苦もなくして峻速に監視監督を爲し... 取締上展望自在にして林道なほ共に防火... 線たるの効を有す造林地を大體「クローマツ」... 密本位とし一見「クローマツ」の純林たるを... 思はじひ然れども瘠砂地には「ニセアカサ... ア」卑濕の地には「ハンバキ」「ドローヤナギ... 「ブナダマス」其他諸種の潤葉樹を植栽し... 又「ビバキ」「カチマツ」等を混植したるあり... 是等は試験的植樹なるべしと雖も其造林は... 自由にして僅に一二段歩の場所と雖も其他... に適當なる樹種を選みたる如き彼の施業案... に囚はれ不適當なる樹種を顧みず一齊造林... をなすの林業方法とは全く其の趣を異にせ... 同地方に於ては松樹類の天然生を有する... は朝鮮と相似たる所あり獨逸が世界第一の... 林業發達國にして學理的に攻究せられたる... 幾多の優良樹種を其の本國に存するに拘は... らず經忽に之を殖民地に移すことなき其土... 地氣候に適應し天然生を以てすら尙能く生... 長し且用途の廣き松を選みて主林木となし... たるは極めて適當なる營林方法と云ふべく... 殖民地の經驗日尙淺き邦人の大に鑑むべき

事となすべし (3) 市街近接地の造林 市街地に近き中地... の部分は苗圃或は試植地に應用せらる此部... 分には多種の樹木を植栽せられ生長量極め... て旺盛なるを認む植樹地には一步も踏入る... ことを許さずと雖も蜿蜒縱横せる道路は自... 由に開放せられ恰も公園と苗圃と森林とを... 兼ねたるもの如し同地に於て仕立てたる... 苗木は希望により何人にも賣却せらる其阜... 頭に積出せる苗木を見るに荷造極めて鄭重... にして根部は一々水苔を以て包み全部菰包... ぎなむあるを以て枝梢露出して荷擦を來す... の虞あるを見ず中には箱詰となしたるもの... すらあり元來西洋の荷造方法が極めて鄭重... なるは常なるも森林植栽の苗木に斯る荷造... をなすは蓋し獨逸の獨逸たる所以にして木... 材不便の同地方に於て斯の如き荷造を以て... 搬出せらるゝは其の費用の大なるを推想す... べしと雖如斯して始めて枯損率を減じ生長... に良好の成績を示し永遠の利益を收め得べ... し (4) 植樹の距離 植樹方法は全然三角植栽... にして且極めて密植せられ多くは株間列間... 共二尺乃至一尺のものあり其疎なるものに... 至りても株間三尺列間二尺を超ゆるもの少... く恰も疎立の苗圃を見るが如し (5) 植樹の方法 植樹の準備は豫め約二尺... 立方を有する穴を穿ち孔中及堀上げた土... 壤を充分乾燥日光を透徹せしめあり勿論苗

木の大小及樹種により區別あるべしと雖も... 其用意頗る周到なる恰も内地の養蠶進歩せ... る地方に於ける桑苗の植付をなすよりも一... 層の鄭重を極む斯の如くする時は多額の植... 樹費を要すべしと雖も樹木の健全枯損率及... 生長量に好響を來すと至大なるべし内地に... 於て植樹するものを見るに往々にして双手... に鋏を執り双手に苗木を持ちて土を揚げつ... 挿し入れて鋏を抜き取り足にて踏み附く... の簡單なる方法を以てし根部に草根落葉... の入るを顧みず樹幹の横斜を問はず管に一... 人一日何百本植栽し得たりとなし植栽費の... 節減を誇るを見るも斯る植栽は枯損率の増... 加及根株の屈折を免れず殊に墾土少きによ... り根株の自由成長を妨げ延て生長量に影響... を及すこと勿論なり (6) 密植を行ふ理由 密植せる苗木は成年... 限に達すれば夥しく間伐を要し若くは自然... 枯損するものあるべきも幼樹の間株に乾燥... 甚しき地方に有りては地面根株の防乾上最... も機宜に適す勿論樹種及木材用途の如何に... より疎密程度の斟酌を要すべしと雖も斯の... 如く密植して良材を得べく又生長をして速... ならしむるを得べし (7) 保護及取締 保護取締に至りては最も... 注目に値するものあり前に述べたるが如く... 林産物の竊盜に付ては嚴格なる制裁あるに... 由るべしと雖も植樹地内には絶對に人の立... 入ることなく密生せる雜樹は枝と枝と相交

り樹下鬱蒼として日光の透射することなく... 其下枝は自然の枯落に任せ枯枝と雖も決し... て人為を以て伐採することなく枯枝落葉芝... 草は地面に堆積して土壤を養ひ且密植の樹... 葉と相俟て地面の乾燥を防ぎ樹木の株根を... 保護す植付數年のものは拇指大の新緑蟲々... として二尺以上に及び頗る美觀を呈せり... 松樹の害虫は常に殖林家の恐怖する所膠... 州灣も亦この被害を免るゝ能はず然れ共世... 上往々見る如く害虫の蔓延に任せ樹木を伐... 採するに忍びずさなき枯死し樹皮の剝... 落枝梢の落去る迄放置し天産物を暴殄せし... め林地を徒遊せしめて害虫を益々繁殖せし... むるが如き愚を爲さず一朝害虫發生したり... と見むか一劃の松樹は迅速に伐採して其繁... 殖を防ぎ跡地は直に植樹を實行する等臨機... の所置を誤らざること極めて迅速に林地を... して一日も徒費せざらしむの主義歴然た... り 又或地の新植地の如きは約九十名の枯死... せしものあるて拘らず其跡地は直ちに同種... の植樹を行ひたが普通の林業家たらんには... 此多數の枯損を見れば忽ち其土地に不適當に... して到底此樹種には見込みなきとなし之を... 放棄して樹種の變更をなす所なるに敢て之... をなさず一旦確定したる方針に向ては自信... と忍耐とを以て極力遂行しつゝあるの跡を... 見る之れ單に林業經營上の方針に關し好參... 考資料を與ふるのみならず又以て獨乙國民

性的特徴を窺ふに足るべし 膠州灣に於ける獨逸政廳の草木保護に關... する法令左の如し (一) 千八百九十一年五月三十一日付樹木及... 灌木保護に關する警察令 膠州灣租借地区域内に存在する樹木灌木... 及生草保護の目的は管に風致の爲のみに... あらず夏期の炎熱を禦ぎ且豪雨風塵に抗... して以て土壤の固定を計らんとするにあ... り本令の趣旨に就ては曩に本年七月十七... 日付を以て訓諭する所ありしが、樹木灌... 木を擁護する爲販賣暖房裝飾其他如何な... る目的たるを問はず樹木を伐採毀損する... の行爲なからしめんが爲め茲に重ねて一... 般人民に向て之を嚴達す本令の禁止に違... 反する者は嚴に之を處罰す 歐羅巴人は毀損樹木の被害高に相當する... 罰金に處せられ支那人は全上の罰金又は... 強制苦役を科せらるゝものとす。道路又... は耕作地外の土地の生草を除去する者も... 亦之に相當する處罰を受くべし 從來暖房用として消費せられたる木材の... 代用として廉價の木炭を製造し一般人民... に之を販賣するの手段を講ずべし (ろ) 千八百九十九年五月二拾七日府令 防護地侵入禁止に關する件全道以外に於... ける青嶋周圍の山野及「イルチス」山上に... 設備せる牆壁を以て圍繞せらるゝ苗木及... 植林地内に侵入し馬を乗入れ若は家畜を

放つことを嚴禁す、若し之に違反する者... あるときは三弗以上五十弗以下の罰金に... 處す 總 督 名 (は) 千九百三年三月三日付府令 樹木灌木行商禁止に關する件 第一條 租借地に於て樹木灌木を行商す... る者は百五十「マルク」以下の罰金若は... 六週間以下の禁錮に處す、支那人に對... しては罰金禁錮に換へて苦刑五拾杖を... 科することを得 第二條 鉢植の樹木灌木は第一條禁止の... 限りにあらず 第三條 本令は千九百三年三月拾五日よ... り實施し千九百六年六月二拾一日付本件... に關する府令は之を廢止す 總 督 名 (8) 鐵道用地の植樹 獨逸が少許の土地と... 雖も一日も徒消せしめざるの主義は管に山... 林のみならず、鐵道線路に向ふても充分發... 露せらるゝ其施設に關する膠州灣濟南間の... 敷地は勿論鐵道線路の兩側殆ど全部植林を... なせり、此線路兩側に植栽したる樹種は種... 々ありと雖も概ね「ニセアカサ」其他の... 潤葉樹にして先づ内側或は外側一線に或は... 内側と外側と二線間に植栽し其成績を見て... 後中間全部に植栽したる如きあり、或は最... 初より全部植栽したる所あり。又最初約三... 尺位の間隔を保ちて植栽し後約一尺位の間

植したるものありて此樹木は汽車中より展
望を妨げざる爲め喬林とし林間より平野を
隠見せしむべき結構なるが如し尙線路の勾
配面には多く柳樹を植えて崩壊を防ぎ此の
柳芽は毎年刈伐するもの、如し

鐵道用地の植樹に至りても亦其保護行届
き用地外一步を出づれば草根迄も盡く掘採
燃料に供せらるゝに拘はらず植樹地内は枯
草すら尙且つ採取せる形跡なきを見る

鐵道線路の空地植樹に就ては或は展望を
妨ぐとなし或は盜伐の取締到底行はれずと
法宜しきを得ば盜伐は勿論草刈の禁止取締
も行はれざるに非ず、喬林となさば當に展
望を妨げざるのみならず却て風致を添へ盛
夏林間に涼風を送るの快を旅客に與へ且つ
濫りに線路に人畜の立ち入るを妨ぐの柵垣
を爲す、今假に三百九拾餘「キロ」の長距離
に渉る線路兩側を幅五間とするも約三百五
十餘町歩の面積を存す此の不生産地を利用
して植樹し其の收益を計るは誠に其當を得
たるものと云ふべし

津浦鐵道線路に至りては膠濟鐵道の如く
ならずと雖も到る處植樹を見る同鐵道は借
款鐵道にして獨逸或は英國の干渉を受ける
により之が指導によるべしと雖も漸次植樹
區域を擴張するもの如し

(9) 結論 千八百九拾八年獨逸が一宣教師
の殺害に口實を籍り威力を以て山東の一角

るに至りぬ此時京都には舊來の文明尙行は
るるあり幕府に依りて起されたる質朴剛建
の武家の文明と共に兩々相對立しつゝ榮辱
幾度か青史を蝕るを見つゝ室町幕府を経て
天下亂麻の戰國時代に遭遇しぬ

幕府の勢漸く衰へ綱紀隨ひて弛むに至り
諸方の豪族は蹶然として立ち須臾にして屢
々たる征矢の響閃々たる劍戟の閃き地に
て屍死の横はらざるなく河にして碧血に染
まざるなきの大修羅場と化し戦々兢々天は
光を失ひ地は寧日なきに至らしめつ我が歴
史の暗黒時代はかくして至りぬ

漸くにして信長志を得次いで秀吉海内を
一統すと雖も久しく蹂躪に任せし斯界の趨
勢は又如何とも爲すを得ざりき

然るに徳川氏治を敷くこと爰に久しく一
旦雌伏せし文學界は忽ち時を得て漢學國學
共に猛然として勃興し徳川時代と稱せらる
る重要な一時代を畫せしめぬ

徳川時代に依りて復興されし漢學國學は
四十五年に亘れる明治時代に於て西洋の文
學を輸入し忽然長足の發達をなして爰に大
正の聖世を迎ふるに至れり

斯くして時に轆轤困頓殆ど見るかげもな
く時に或は陸離たる光芒を放ちて興亡幾轉
回榮枯幾變遷應仁天皇の十六年より史を閱
すること一千七百年に及べる我が文學界は
今や大正の惠澤に浴し更に偉大なる文學史
を造成せんとす慶すべき哉

膠州を占領したる所以のもの抑々如何なる
魂膽の存するによるか、元より山東無盡藏
なる礦物に垂涎せるも其一原なりと雖も之
寧ろ其小なるものに屬し獨逸眞の目的は他
に存す、即ち其世界霸政策を東洋に行はん
爲めの根據地たらしむるに在り、されば僅
に猫額大の一小區域に對し、最高の智識と
經驗とを有する専門の技師官を置き以て百
年の計たる營林の事に従はしむ、其經營の
集約なる點に於て實に世界何れの殖民地に
も其例を見る能はざる成績を示す、亦偶然
にあらずと云ふべし

依之觀之も凡そ世事は天の時よりも將た
地の利よりも實に人の努力に負ふ事の大な
るを感せざらんと欲するも能はざるものな
り、されば天地の利をも一身に併せ持ち依
りて東洋の重鎮たる責任を擔ふ吾が大和
民族たるもの須く和協努力して吾人の世界
に對する使命を全ふせざるべからず。(完)

備考 本文は朝鮮總督府月報に據る所多
し、記して其出所を明かにす。
(十月十五日青島攻圍戰戰酬なるを聞き
つゝ擷筆)

文苑

我が文學史

我が國に文學の傳はりしは實に應仁帝の

和歌

一 年 平田 晚村
○尼達○花○給○給○長○谷○寺○に○日○ぐ○らし○なき
○秋○近○き○日○に○(鎌倉にて)
○あ○す○訪○む○君○住○む○島○を○遠○く○見○て○獨○り○歌○書○く
○荒○磯○の○宿

二 八なる京戀ひ渡る若人をなだむること
く海鳴りのする(以上二首逗子海岸にて)
君と行く四ツ谷見付の土手の草尺程とな
りあめになびく日(東京四ツ谷見付にて)
こころよし若き紳士が電車より轉びし折
の術なきの顔(神田駿河臺にて)
小鼓の音さへかすみて聞ゆなりこののど
かなる夏の月夜に(沼津町で鼓を聞きて)
箱根山峰立ちのぼる雲の上に玉となりた
る富士のたふとさ(小田原に富士を見つゝ)

錦の山

二年 矢嶋 六合

白露の色は一つにて 千々に染ぬ樹々の秋
神無月の末つ かつ おく霜千朝ぼらけ
たりなす錦探らんと 山吹山に飾ひきぬ
道の小草も赤らみて 小鳥の聲も晴やかに
玉ぬく露も朝日に 映わて小春の風靜か
山の阻道とめれば 林にひびく銃の音
名も恐ろしき人喰の 一本橋はあれとかや

十六年二月なりき神皇正統記に曰く「百濟
より博士を召し經史を傳へらる太子以下之
を學び給ひき」と

神代以來言語に依りて爲されたる意志の
發表は更に文字に依りて之れを助けらるゝ
こととなりき時なる哉恰も支那に内訌あり
爲に韓人支那人の我に歸化する者多く時に
或は韓土の内附に依り或は佛敎の興隆に依
り我が文化は大に進みて萬世不器と稱せら
るゝ大寶令の公布を見るに至りぬ

更に我が文學界の發達は彼の古事記風土
記の編纂となり仲鷹眞備等の輩出となりて
我が文學史に奈良時代てう一の時代を構成
せしめぬ彼の萬葉集の如きも此の時代の産
物なり

平安朝時代に入りたる我が文學界は愈々
其の歩武を進めて時に殆ど其の絶頂に昇り
しが如しと雖一夜無情の嵐斯界に荒ひ惜し
くも遣唐使の中絶となり紀元九四五年初め
て傳來してより我に胚胎したる漢文學は爰
に一時衰運に向ふの息むなきに至りぬ漢文
學の衰頽に反し隆々として興りしものは乃
ち國文學なり

竹取物語土佐日記枕草紙源氏物語及幾多
の歌集等踵を接して現はれ櫻梅桃李一時に
開くの美觀を呈しぬ
更に保元平治の二役を経て平氏全盛の世
となるや武人の文弱は遂に野に放たれたる
諸源の峰起を促し彼の鎌倉幕府の建設を見

いかなる神々住み給ふ 荒神橋をうちわたり
行けば上田の里に 三に壽永のの かみを
忍ぶにあまる深み、 元服松が登れたる
駒の裾野は大原野 澄みて流るゝ水清く
賤が伏屋にさく菊の 色も香もなつかしや
稻刈る里の乙女子の 唄さきつゝ行程に
原野の里うちすぎて 宮の越驛つきにけり
德音禪寺をたとへば 二に眠れる英雄の
墓は空しく苦むして 雄圖の跡や今いづこ
只枋名を世にとめて 哀さるるばかりなり
八幡の宮より見渡せば 山吹山はまのあたり
緑くれなるこきまで たとへば奇し山姫が
赤地の錦や青錦 織り出しに異さず
こゝに名高き山吹の 橋の上に見おろせば
藍を流せる溪流も 紅葉の色に染まるかな
此天然の大景に 只恍として我酔ひぬ
忽ち起る鐘の聲 我にかへれば秋の日。
はや西山に傾くに 名残惜しけれぞ
又こん秋を契りつゝ 家路にかへる足重し

通信

警程一千日(九)

曾山 子

◎全信州八百三十九方里東西四十三里南北
五十四餘里中獨り下伊那郡南端數ヶ村の踏
査は多年の宿意なりしが今や此地に秋色を
掬す和田村一帯は遠山と稱し風物宛然別世

界なり乾坤寂寞として滿目蕭然幽靜爽涼の氣充てり今や信の天地養跡を留めざる無きを思へば心嬉しからざる能はず

○余は前回に於て只課長を迎ふるに忙はしき母校の將來を祝福するを忘れたり余は固より良校長を引き抜かれし母校を忘却せしにあらざるや愛すべき後進諸君の多幸を祝福する程にもあらざれども又決して諸君の將來を呪ふものにもあらざれども思へば「賣家と御家流で書く三代目」を華と過ぎし今日を多く祝する事も本意よりは出来難きを！嗚呼又嗚呼

○吾人は次の四項を基礎として後進者に勸め度き一事あり曰く
母校を出で、駒場にアツシスタントライフを送るニケ年
本多博士の揮下に民業に在る半ケ年
病氣の爲め療養する八ケ月
本縣に在職する七ケ年
而して社會上最も其知識に欠陥あるを常に憾めるは

第一法律的素養の不完全
第二語學の素養不足 之れなり
管に林業のみならず凡そ技術者なるものは一面別種族を以て目ざる殊に地方廳に此弊厚し茲を以てヘツポゴ俗吏共の牽制を否み難き事尠からず吾人は一般技術者が今一步を法律學の研鑽に進められんを切望すると同時に諸君と共に今より一層此邊に心を潜

○又我大鰐署には嘗て小藤(作四郎)技手ありし由なれども唯過去なるを如何せん然し乍ら尙島内先生の御同窓たる池田(敢二)技手及び安藤前校長の奈良時代の卒業生たる和田(與三郎)兄のあるありて何となくなつかしき心地するあり
○由來大鰐の地は奥羽線中の温泉を以て知らる即ち戸數僅に三百の村落なれども人口優に三千を超ゆ鐵道は途中下車驛なり電燈も點けば電話も通ト工業地弘前を七哩の西北に自然の秋色を誇る秋田湖を七里の東南に控へたり

○且天與の國産林檎は見渡す限り山野に滿ちて名物萩桂の大木に因める餅相生松及アジャラ山等に因む餅はアケビ蔓細工と共に旅容の好土産たるを失はじ
○夫れ秋田青森兩縣下の在住者諸兄幸に鐵道地圖を披きて我々は近しと思はん人は試みに一度御來遊あれと擲筆に臨んで吹く事爾

(十月十三日第二事業區見習視察の夜九時遠きが如く近きが如き砧の音を聞きつ)

雜報

學校便り

其後の學校の模様大略左に申上候
○十月廿二日好晴に乘じ職員生徒一同宮越方面へ遠足を企て山吹山に至りて紅葉青山

め度きもの夫れ我意なるなり
語學の必要今茲に贅せし
○僕の逢ふ人毎に亦書面毎に本誌投稿を強ふるに對し返答の多くは多忙なるの故を以てすソコで僕も一應僕の多忙程度を告白する義務を感ず

公務上の多忙程度は少くも人並みなり新聞は三種を見る一種は必ず便所の中で済ます朝は冷水摩擦と静座法を少しやる
雜誌は米國のアメリカンフアレストリ(月刊)と農業世界他に一種又勿論大日本山林會報と近刊の一二冊は見る専門書も瀛車中で通讀する今は行政法を見て居る少しは書畫の娛樂も無いではなし
家は父を喪ひて未整理中に補助役義弟を近日常亦喪つた神身の疲勞も少くない
先づコンナ事なれども御茶を談じ煙草の煙を眺め入る暇はドモ月當らない以て如何とす

思出の記 (二)

本欄は開放して諸君の投稿を歓迎する希くは其三は何人かの筆に依り度きを
○長野縣の治水は國家的の事業と力石明府縣會に宣す此邊確に一見識
○省に上山次官在り縣に力石知事と安藤課

水急流の趣を賞し傍ら南宮神社旗上げ八幡徳音寺等の名勝を探り一日の清遊に日頃の塵懷を一洗致候
○十月卅一日は天長節祝日に相當致候へ共御諒中として祝賀の式も無之轉々寂寞の感に不堪候處恰も奈良縣立農林學校生徒四十餘名の來校(杉村吉野兩教諭引率)有之茶菓の間彼我懇談を遂げ候は愉快に候ひき終りが先方は旅行の疲勞もあり甚だ振はざりしは我劍士に取りて聊か物足らぬ感有之候
○十一月七日は青島陥落の聲が大和嶋根の津々浦々山の奥野の果までも響き渡りし日にて候學校にては全日午後一時警察電話によりて陥落の確報を得れば生徒一同を校庭に集めて七宮校長の旨を傳達し豫て町役場と打合せの通り午後六時福嶋小學校々庭に參集すべく依て職員生徒一同全五時半本校庭に集會する事とし急遽鬼灯提燈を調達配付し斯くて同時刻となれば各自竹枝に紅燈を吊し隊伍堂々行く勇壯なる軍歌を合唱し沿道の耳目を驚かし六時前小學校庭着茲に暫く町内各行列の參加を待ち八時福嶋町長の挨拶終るや否や我百五十の健兒の一隊は先頭に立ちて進行し始め凱歌の聲勇ましく町内隈なく巡行し關山公園に上り最後に町役場庭前に至り萬歳を唱へて解散せるが參加人員は亡慮二千名に上り紅燈は颯々長蛇の如く喊聲は天地に響き壯觀極まりなく國民熱誠の程も現はれて愉快禁ずる能はず候ひき
○十一月四日には体操教師兼舎監として福山先生を迎へ候同先生は士官學校砲兵科を出でられし後廣島東京高田等の各聯隊に勤務大尉に陞任せられしが御病氣の爲豫備となり暫く津市に靜養せられし處今回我校の爲に盡さる事となりしは一同慶幸とする處に御慶候

長と在り此時ダゾ!
○杉の赤枯病は五年前の遺物今頃騒ぎ立つ様では今迄の係員は何と詫びる?
○林業教育は小學校に端を啓け夫れの教養は即刻始めよ
○努力健闘之れ吾人の理想劇務間五分の熟睡出来れば一段の進歩
○己れを知るは人道の要義!左遷的榮轉に後進の進路を誤らざれば幸!噫!!

南津輕より

越畔山人

○劈頭先づ遙かに安藤長野縣林務課長、七宮木會山林學校長、西澤同校教諭三先生の御榮轉を祝し奉る
○山人今奥羽の北端にあり坐ら時代の變遷(チト仰山なれど)を思ふて轉感慨に堪へず同時に我懐しき校友諸兄の動靜を思ふて止まず
○頃日我青森大林區に奉職する蘇門出身諸賢を知り得たるを以て御紹介仕らんに第一内真部小林區に藤卷(壽一)技手あり次で袖川小林區に丸山(金三郎)兄喜良市小林區に鹽澤(英一)兄あり鯉ヶ澤小林區に久保(照人)君大畑小林區に梨原(貞次)兄川内小林區に小林(桂一郎)技手及伊藤(徳之丞)兄山崎(三男)君宮古小林區に竹内(房太郎)技手盛岡小林區に戸田(續)主事あり即ち大鰐小林區の手を加へて都合十一人なり

○去る八月中請願の本校水路工事に付ては豫て縣に於て追加豫算として縣會に提出する手筈になり居候處愈々今縣會に於て原案通り可決せられたるが工費千五百餘圓にて來春早々工事に着手する由に候へば絶えず脅威せられし濁水の難も明年度よりは解除せらるべく同慶の至りに存候安藤前校長は水の問題に就て尤も苦慮せられし一人に有之右追加豫算決定するや否や松岡縣會議員と共に直に一書を寄せて祝意を表せられ候
○序に校友會顧問の移動有之候間申上候庶務會計の征矢野書記は八月中願に依り辭職され加藤書記之に代り今回又北村教諭辯論部顧問となり西澤教諭擊劍部顧問と相成候

○敝任辭令
任長野縣立木會山林學校教諭兼舎監
給十一級俸手當月三圓
豫備陸軍砲兵大尉從六位勳五等功五級

敝從七位 校長 七宮 純也
敝正七位 教諭 北村 正夫
敝正八位 全上 新家 園夫

校友會辯論會記事

豫期はせしもの、そのあまりに早くして且つ突然なりしは青嶋の陥落なり十一月七日一片の快報に接し欣々たる雄心禁ずる能はず遂に當夜の祝提燈行列に幾分の英氣を放ちしが十二日に到り祝提燈開會す日本帝國の武威八紘に耀くの秋而かも軍國の青年吾黨の意氣實に當るべからず壇上に去來する辯士は侃々諤々舌頭風を生じ寛を吐くの概あるもの少からざりき
今その辯士と演題とを併記すれば
△開會之辭 七宮 會長
△辯士に告ぐ 北村 顧問
△裏面と表面 二年 坂本 光太郎 君
△The story of Regency (英文詰誦)

△發憤の反面 一年 平田 久良治君
 △戰争の感 二年 伊藤 喜代君
 △進取の象 二年 長坂 清八君
 △人格の内 二年 山下 不二君
 △獨尊と我慢 二年 都竹 武次郎君
 △犠牲 二年 古畑 秋藏君
 △物の大さ 二年 飯沼 要人君
 △眞理とは何ぞや 二年 飯沼 要人君
 △余興詩吟 金州城外作 林 先生
 唱 涼 州 詞
 浪 節 赤 垣 源 藏 慶 山
 ΔDoyuki Chabo 一年 柳澤 得衛君
 Δ山林學校の今昔 一年 宮島 清徳君
 Δ間接射撃に就て 一年 西澤 岩見君
 Δ青島陥落 三年 柳澤 止之進君
 Δ所感 三年 福澤 先生
 Δ青島陥落と東亞の大勢 三年 中村 五郎君
 Δ文明の片影 三年 伊藤 正之助君
 Δ青年の覺悟 三年 田近 善右衛門君
 Δ近時雜感 三年 今井 眞二君
 Δ閉會の辞 七年 宮 會
 Δ萬歳の三唱 一年 宮 會
 當日の晝食には本日の祝意を表して赤飯
 を饗し鼓腹せる健兒の意氣は更に昂る吾知
 らず案を敲いて高く快哉を呼ぶものあり拳
 を握りて片唾を呑むあり日既に西山に傾く
 午後四時迄を愉々快々裡に畢めぬ辯論部創
 始日尚淺しと雖も進歩實に驚くべし辯士の
 舌鋒も漸く堂に入らむとす乞ふ一層の奮勵
 を(十一月十五日一記者)

擊劍部記事

十月三十一日奈良縣立農林學校生徒三年級四十餘名修學旅行の途を以て本校に立寄る校内參觀の後本部に試合の申込みあり依つて本部は之れに應じ松原擊劍教師審判

の下に試合を行へり其の勝敗次の如し

- 渡邊君(奈良) 芝原君(奈良)
- 都竹君(本校) 柳澤(止)君(本校)
- 池田君(奈良) 吉川君(奈良)
- 恩田君(本校) 長崎君(本校)
- 加藤君(奈良) 紙谷君(奈良)
- 種倉君(本校) 松川君(本校)
- 大矢君(本校)

會員消息

○古畑金藏君は今回鳥取縣八頭郡若櫻町字糸白見村官行所へ赴任する事となり
 ○原田洋平君は上田小林區署に轉任十月五日赴任せらる
 ○林恒君は今回福島縣廳へ轉任せられたるが岡田彌兵衛君は今回湯舟澤出張所へ轉任せらる
 ○小谷益實君は今回森林主事を命せられ福嶋縣相馬郡原町小林區署へ轉任せり

編輯餘録

○第十四回信濃山林會總會は十一月十五日更級郡稻荷山町に開會安藤林務課長の上竹林の荒廢北村本校教諭の製炭改良上の意見附新案製炭法本校卒業生杉本上水内郡林業技手の「山の神」等の講演があつた村教諭は製炭法に就ては豫て熱心研究せられたらう

大正三年度運動會經費収支決算報告

一 金百五拾五圓四拾六錢也 總收入高
 一 金百貳拾貳圓四拾六錢也 校友會より
 一 金百貳拾貳圓四拾六錢也 寄附金
 一 金貳拾貳圓八拾六錢也 雜收
 一 金貳拾貳圓八拾六錢也 支出高
 一 金百拾圓參拾五錢壹厘也 總收入
 一 金百拾圓參拾五錢壹厘也 支出高

金七圓貳拾錢參厘 庶務部
 金六圓八拾壹錢 審判部
 金參拾八圓八拾貳錢五厘 接待部
 金貳拾參圓九拾九錢 裝飾部
 金八圓七拾九錢六厘 備餘部
 金拾壹圓拾貳錢五厘 借物部
 金參圓拾貳錢九厘也 物部
 差引殘額金四拾五圓拾錢九厘也 (校友會費へ繰入)

庶務會計係

右ノ通り相違無之候也 庶務會計係
 安藤前校長慰勞金申込及領收報告(第一回)
 金參圓 高樋 博君
 金壹圓五拾錢 杉本 恒君
 金壹圓 林保田 吾良君
 金壹圓 久保田 知則君
 金壹圓 渡邊 順君
 金壹圓 原永井 潔君
 小計拾壹圓五拾錢
 備考、即トアルハ即納、其他ハ申込ノ分
 安井書記退職慰勞金申込報告 大脇 又衛君
 累計參拾四圓四拾五錢
 林教諭退職慰勞金申込報告 大脇 又衛君
 累計六拾四圓七拾五錢

謹告

拜啓今般安藤校長殿には長野縣林務課長に御榮轉被成候に就ては先生御在職中の功勞に酬ゆる爲記念品を贈呈し聊か報恩の微意を表し度候間何卒御賛同意分の御寄附に預り度此段以誌上得貴意候也
 追て締切期限は本年十二月末とし御送金は可成振替に依られ度口座番號は「東京一七六〇〇」に御座候
 大正三年十月 木曾山林學校校友會 卒業生各位